



國防と體育問題 (下)

秋山慶幸

ヘル

シヤの勃興は西曆前...

國民

訓練が行はれて居り...

詩篇

イリアッドはその代...

體育

と競技は非常に早く...

男子

は七才から音楽練習...

同盟通信社報 publication info

訓練

には注意を怠らな...

軍事

教練にいそしみ...

制度

の完備と共に體育...

大祭

は天と地の孫、光明...

政府

は楯と槍を授與して...

文獻

から此處には敢て詳...

貢獻

して來た。オリンピ...

競技

も初期にあつては單...

武裝

競技の發達と共に種...

嚴格

な資格審査が行は...

勃興

殖民地に於いて自由主義...

宗教

の相違即ちキリスト...

健康

體操にその片鱗を留...

賞品

に化せられて競技者...

佛印と事變の反響

大屋久壽雄

對支武器輸送

佛印經由の對支武器輸送

の輸送は現在でも依然行はれてゐる。正確なことは知り得ないが現在の方が以前より活潑であることは海防港の情況が實際にこれを物語つてゐる。たゞ前と變つたことは支那奥地の情勢變化に伴ひ、佛印經由支那に送り込まれる武器軍需品の内容に些か變化があつたといふこと、現在では主としてトラツグ、液體燃料が送られてをり、これらは全部西雨運船公司を主とする數個の支那側輸送機關の手で輸送されてゐる。佛印側ではトラツグは民需品だと稱してゐるがこれが支那内地にあつては

軍事目的

に利用されてゐる

ことは支那の現状から見て明かなことである。辯解は一顧の價値もないと見てゐる。これらトラツグは多くラソン、鎮南關經由陸路廣西に送られ、こゝより貴州、雲南方面へそれぞれ輸送されるが、大半はガソリンを主とする他輕量の軍需品を積んで一日平均三十臺位が夕刻から夜にかけてハイフォンを出發相連つて流れ込んでゐる。その他の武器に就いては詳細なことは知り得ない。殊に最近では佛印自體の防備強化工作のための武器軍需品輸入が多い上に海防港の取締り益々嚴重で調査は殆ん

ど不可能であるが、各種情報綜合するに銃器、銃砲彈程度の輕量武器は依然入つてゐる模様である

雲南鐵道

による輸送は同鐵道

の惡條件から一日五百噸が精一杯のところらしく、軍需品の他輿地建設材料、支那の對外輸出品等總てこの鐵道に依存せざるを得ず、從つて軍需品の輸送量は極めて制限された程度のもので見られる。現に同鐵道の輸送力微弱のため海防港は貨物の大氾濫に悩みこの解決問題は佛印新聞が連日いろいろと論議してゐる程重大問題と化してゐるが、目下のところ雲南鐵道の輸送力増大は困難だといはれてゐる。この他廣西國境に延びるナチャム鐵道も多少の役割りをなしてゐるが、この線は本年十月開通豫定の南寧鐵道完成の曉には同線とドンダン(國境より四キロ)に於て連絡し、むしろ雲南鐵道を凌駕する對支重要輸送線となるであらう。要するに佛印經由の對支武器輸送は一時喧傳された程有力ではないにしても、最近益々いびる効果的な輸送路で、何らかの方法によつて今日この幹線が塞がれるならば抗戰支那は徹の窮地に陥ること必然である。

滿洲事變

の時には殆んど無

戰局南進と佛印の時には殆んど無

關心に近かつたといはれる佛印が今度の事變に際しては最初から非常な注意を以つて局面の變遷を見守つてゐたやうで、無智な土民などは戰火が遠く中支方面に限られてゐた時に於てすら早くも「もうすぐ日本軍が佛印に上陸する」とあらぬ流言に恟々としてゐたといふがこれは記憶に價することである。即ち彼らは直感的に今次事變に對する日本の斷乎たる決意を認識し「東亞新秩序建設」を彼らなみの單純な「侵略」として理解したのだと私は考へる。佛印當局は民心の動搖を深く懼れて種々慰撫に苦心した。一部では西沙群島の占領を土民に對する佛蘭西の威力誇示のための一手段と解してゐるものもあるが私も當時の佛印新聞の度外れな逆上の報道ぶりから推して或程度までこの觀察は當つてゐると考へる。私が著任した昨年八月頃でも矢張り土民たちは「日本軍はいつ攻めて来るか」を眞剣に心配してゐた。それが

廣東陷落

一層深刻

になつて來た。今度は土民だけでなくにフランス人中にも眞剣に不安を覺ゆるものが續出した。獨逸のチエコ進出と時を同じくしたため歐亞大陸を舞臺とする大々的な世界大戰を豫想するものもあり小額硬貨恐慌、物價高昂を招來、人心極度に動搖して佛人にして早くも立ち退き氣構へで家屋、家財の整理をなすもの、實際に立ち退いたものも少なからずあつた。當局では痛く狼狽して民心鎮撫に百方手を盡すと同時に罪を悉く日本人に嫁し、言論機關は一齊にこれを總て日本側の宣傳によるものであるとなし、日本のスパイ行爲と稱する虚報を大々的に書き立てると同時にフランスの強さを強調、

第一幹線

結果日本

とフランスとの間に對支輸送に關する水掛論的交渉が頻りに行はれた結果、直接利害關係にある佛印貿易輸送關係業者(主としてフランス人)が一齊に對日強硬論陣に加はつて旺んな反日親支の火の手をあげたのである。しかし海南島の占領は事態を全く一變した感がある。獨善的遠吠へのフランス人は「胸元に擬された匕首」に彼らは言ふによつて愕然冷然に返つた。安南人は漠然たる恐怖からむしろ一種の憤慨、信頼を秘め、私共はホツと吐息した。

廣東陷落

後支那人

流入するもの傾に激増して今や支那避難民問題は佛印に於ける重大社會問題の一つと化してゐる。正確な數字は判らないが現在でも毎月約三千名の支那人が流入してゐると見られ、北方の海防、河内には主として富裕者、官公吏、商社關係、南方の西貢、ブノンペン邊りには主として中流以下の避難民が流入し北方ではために物價騰貴、家屋拂底を來し、南方では賤業婦、惡質犯罪者の激増を見るなど、何れにせよ彼らの存在は決して一般土民には喜ばれてゐない。その上支那人は安南人を一階級下等な人種の如く思ひとかく傲慢な態度をとり、一方安南人は之ら避難民を祖國非常の時を他處に他國に自己の保全を求むる非國民として侮蔑し、この感情が高潮して最近では

佛印の自主國防

當局者は必ずしも

さうでない。責任のない民衆はハツとして急に大人しくなればそれで済むが、當局者ともなれば日本の眞意を知れば知るだけ眞剣に考へねばならなかつたわけである。こゝに竊然たる佛印自主國防論の頭腦があり、シャム、蘭印、英領各地との提携論あり、また實際的國防強化政策の實行が期せられたのである。列擧しただけでも四千

佛印各處

に足を踏

属つたとかいふ些細なことから百人、二百人と安南人支那人の集團的格闘頻發、遂には四月中旬のホ

(第一頁續き)

國防の制定によつて徴兵令階級を除く十七歳以上の青少年に對して實際的訓練が猛烈に行はれた。ローマ時代に衰微した體育は以後中世紀を通じて所謂文藝復興時代に到る迄約九百七十七年の間全く捨て、省みられず僅に十二世紀頃から西部ヨーロッパに生れた紀元から西暦の中にもその片鱗によつて教育が僧侶の手から解放されるに及んで體育問題は再び採り上げられ、近代オリンピックの誕生によつて發見的に一段階を爲して今日に到つたのであるが、中世紀、近代の各國體育情勢更に我が國に於ける體育問題に就いては他日更に機會を得て誌す事とするが文化的に最盛時にあつた時代の體育が斯くの如き

傾向

を辿つた事は文化的

に漸く燃熟期に達せんとしつゝある現代の競技界に對比して最も興味ある問題であり、唯物思想の發達した米國が、野球拳闘、レスリング、庭球、水上ホッケー、米蹴等々と次々に職業競技者を生み、然も職業スポーツ王國として繁榮を極めて居る點、異常時下とは言へ

現時

なほ此の影響を多分

に殘して居る我が競技界、加之競技實用論の擡頭等興味ある研究題目が數多ある事をのみ明示して一先づ擱筆する。

佛印各處

に足を踏

從來非常に好意的であつた佛字紙土語紙の一齊攻撃への轉向にこれまた周章して再三總領事廻章を發して華僑を戒罰則まで公布した事態依然たるものである。

佛印各處

に足を踏

從來非常に好意的であつた佛字紙土語紙の一齊攻撃への轉向にこれまた周章して再三總領事廻章を發して華僑を戒罰則まで公布した事態依然たるものである。

國際通信戰

遞信省

(中)

三、無線の發達と各國の通信自主權確立

然るに世界大戰を契機として國際通信界にも一大變革がもたらされた。無線通信の發達が即ちこれである。

一八九六年イタリー人マルコニに依つて無線電氣が發明されること、久しく英米の國際通信獨占に苦汁を嘗めてゐた諸國は競つてその研究改良に全力を盡した。中にはドイツの努力は最も眞剣だった。當時ドイツでは汎ゲルマニア主義の勃興に伴ひ、英佛兩國との衝突が不可避の情勢にあり、そのためイギリス通信網の羈絆を脱し、自主獨立の自國通信網を結成することが焦眉の急務とされたのであつた。しかし英米は海底線事業に慧眼であつたと同様無線にも決して他國に後れをとるやうなことはなく、英米獨占には無線發達の當初から激烈な争闘が展開された。

こんな各國間の競争軋轢は自然無線の發達進歩を促し、一九〇八年には早くも大西洋横斷の長距離連絡公衆業務が開始され、更に歐洲大戰勃發に依つて無線の改良進歩はますます拍車をかけられ、大戰末期には世界各地の完全な連絡が可能となり、之が各國を驅つて無線に依る對外通信の自主獨立を實現させ、大無線局が陸續として各地に建設されたのである。その後短波の出現に依つて長距離無線電氣は更に飛躍的發展を遂げ、最近また電線電話・無線寫眞電送・

ラヂオ・テレビジョン等が相次いで發明され無線の國際通信界に占める地位は海底線を凌駕するに至つた。

かくして今日世界各國を連絡する國際無線電氣電話回路は二千の多數に上り、これらの無線電波は外交戰・經濟戰・情報宣傳戰等の尖兵として大空に相交錯し、電波のスパークさながらの激烈な争闘を演じてゐるのである。

我が國でもこの新銳の無線に依つて對外通信の自主權を確立する方策を探り、大正十四年「日本無線電氣株式會社」を起し之に政府の必要とする無線電氣設備をなさせしめ、又昭和七年には「國際電氣株式會社」を設立し之に無線電氣設備をなさせしめ、政府は兩社の無線設備を使用して主要外國との間に直通無線電氣電話回路を開設することとなつた。

爾來十有餘年、政府の熱心な劃策と兩社の努力とに依つて、我が國の對外電氣通信は劃期的な發達を遂げ、無線電氣連絡は會社の設備を使用するもの二十二回路、政府自ら設備するもの四回路、計二十六回路(滿支を除く)に及び對外電氣の約五割六分、一日約三千五百通の外國電報がこれ等の連絡に依つて取扱はれてゐる。又電氣連絡は會社の設備に依る十一回路(滿支を除く)で、世界に散在する三千二百萬個の電話即ち世界總數の約九十二%の電話と接続し得るやうになつた。

なほ兩社は昨年三月合併して

「國際電氣通信株式會社」となり、一段と鞏固な基礎の上に無線電氣電話の綜合的擴充整備を行つてゐる。

四、東亞に於ける國際通信戰

一八五一年世界最初の海底線である英佛海峡横斷線に成功してから僅かに二十年を出ぬうちに、イギリスが早くも東亞進出に着手したのは既述の通りであるが、當時は恰も歐洲勢力の東漸が次第に熾烈となり、太平洋が次の世界政策の中心地とたるべき情勢にあつたので、ドイツ・デンマーク・アメリカ等も東亞通信の重要性に眼をつけ、相次いで自國通信權を進出させるやうになり、歐米通信勢力は滔々として東亞國內に流入し、東亞の國際通信は全く彼等の掌中に歸した。殊に世界の半植民地的存在であつた支那に於いては、國際通信は固より國內通信にまで干渉し、通信願用を採用させ、或は借款等の名の下に機材を賣込み更にその施設を擔保として事業を運用する等全く自家壟斷中のものとしたのである。

先づイギリスは「大東電氣會社」を東亞通信政策代行機關として、一八七一年その海底線を地中海・印度洋經由の南方コースに依つて香港に到達させ、同地を中心として上海・フィリピン・ボルネオ・瓜哇等の各地へ強力なる海底線網を建設した一方デンマークは大北電氣會社にシベリア横斷の北方コースに依つて日本と支那への通信路を建設させ、これ等の兩社が東亞の國際通信を二分するに至つた。而してイギリスはデンマークと提携して支那に當るのが得策であるとし、一八九九年對外電氣獨占權を獲得したのを始めとし、北清事變等の内政の紊亂を巧みに利用して支那の國內通信事業にも確固たる地歩を築くに至つた。

我が國が日清・日露・日獨等各大戰に貴い血を以つて獲得した淡水・川石山線、大連・芝罘線、佐世保・青島線等の各海底線がいつ

れも彼等の獨占權に禍されて、その運用上種々の制限を受けたことは特に留意すべき點である。

次に無線時代に入り、先づドイツが一八九〇年北京に無線電氣機を据付け、一九一四年にはシメンス會社が支那政府との間に二十年間テレフンク式以外の無線電氣機を採用しないこと、及び通信取扱はドイツ人に限定すること等の密約を締結した。これと同時にイギリスも國內無線電氣施設の特權を得ようと支那政府と交渉を開始し、英獨間に激烈な競争が演ぜられた。また一九一七年には支那交通部顧問のデンマーク人ラーセンが大無線局建設契約を締結するに至つたので、我が國は、無線のやうな擴散性を有する強力な通信機關が第三國の獨占に委ねられるのは日支間の密接な通信關係を著るしく阻害すると再三交渉の結果、一九一八年我が三井會社と支那海軍部との間に無線局設置の正式調印を行つた。

これに對しイギリス政府は自國通信權を侵害するとの抗議を提出しこの問題はますます紛糾するに至つたが、更に支那はアメリカのフエデラル無線會社と上海その他大無線局を建設させる契約を結ぶ二十年間の米支無線通信獨占權を付與したので、支那無線通信權を繞る各國の競争はいよいよ激烈化し、支那無線界は全く權益獲得競争の増幅と化した。

その後一九二七年、支那に動亂が起り國民政府の樹立を見、同政府は新たにアメリカのR.C.A.社と無線電氣建設契約を締結し、自ら對外無線連絡を開設するやうになり、他方無線技術はその間飛躍的發展を遂げ従来の長波無線は全く無用の長物となつたので、三

井・マルコニー・フエデラル三社の無線通信權獲得競争は自然解消した。一九三〇年には長い間東亞の國際通信界を獨占して來た大北、大東兩社の獨占期限が終了したがその後東亞に於ける國際情勢が逼迫するにつれて新たな通信戰が開始されようとしてゐる。

即ちソ聯邦は極東に於ける廣大なる領土の統治、産業政策の遂行對日軍備並に極東赤化工作等の上から、早くから無線通信の擴充を圖つてゐたが、更に有線に依る歐亞連絡を企圖しその實行に着手してゐる模様である。

イギリスも東亞の關門シンガポールに大無線局を建設すると發表し、又雲南ビルマ間の援將ルート強化の爲め兩地間に着々と電氣通信路の新増設を行つてゐる模様でアメリカまたマニラに於ける無線網の整備擴充に努め、同地を東亞無線通信の中樞とする計畫と見られる。(以下次號)

週報一三五號に據る

同盟本社は月例部長會議は六月十五日午後三時より開會、左記の各報告を聴取し同五時過散會した

- 山口聯絡部長より近く開通豫定の本社、商通、國通共用内鮮滿直通専用電話運用に關し來る
- 二十三、四兩日間福岡支社に開會される聯絡會議の輪廓を説明各部より意見乃至希望を開陳した。
- 一、鷹野聯絡局長より來る七月一日より開始豫定の北京大阪間有線直通電送寫眞の當局との交渉經過並に本社の特別サーヴィスにつき説明があつた。
- 一、横田東亞部長より天津情勢の

消息

(月六)

- △大屋ハノイ支局長 六月九日事務打合せのため上京中
- △同二十九日退京歸任の途に就く
- △田中政治部長 同十一日北海道東北地方に出張、十九日歸社
- △淺野政治部長 同上四國、中國、九州地方に出張廿三日歸社
- △白尾前南京支局長 本社總務局勤務となり六月十七日着任
- △三木威夫氏(前社會部次長) 華中交通株式會社に入社、六月二十日東京發赴任
- △秋田正男氏(前社會部員) 同社に入社、同廿一日赴任
- △島山常務理事 福岡に於ける日滿通信連絡會議出席のため六月二十一日西下、廿六日歸社
- △山口聯絡部長 同上
- △福岡聯絡部長 同上
- △北海道地方部長 同上
- △宮崎發信部長 同上
- △高雄社會部員 六月二十三日新京に急派
- △福岡政治部長 六月二十五日中部及近畿地方に出張、七月一日歸社
- △折橋業務部長 讀賣新聞特派員故竹内氏の社葬參列のため六月二十九日前橋に出張、即日歸京
- △中屋マニラ支局長 七月十五日神戸發アルゼンチンチナ九で新夫人同伴赴任する。

テヘラン強行譜

孟買 蘆田 英祥

「そよかぜ」號の到着をカパーナ
る爲めテヘランへ出張せよとの電
報を受取つたのは四月六日の早曉
だつた。飛行機のテヘラン着は十
五日の豫定だといふから、あと十
日足らずしかない。

之は大變

だ、と隣
間思はざる

を得なかつた。と謂ふのは翌七日
から四日間はいースター、ホリデ
ーで、役所も銀行も休みになるか
らだ。今日中に凡ての手續を完了
して仕舞はねばならぬと考へ、先
づ領事館員T氏の宅を訪問した。
十時の開館を待たずに旅券の追記
をして貰ふ爲めだ。次でイラク總
領事館へ廻つて見ると生憎皇帝廟
御の爲め休館とある。翌七日は金
曜日で週教の休日だから土曜日に
来て呉れといふ。困つた事になつ
たと思つたが仕方がないので目的
のイラン總領事館へ行く。所がこ
ゝでも「新聞記者の入國査證は本
國政府の許可を得ねば出来ぬ」と
といふのだ。「何日位かかるか」と
聞けば「十日はかかる」といふ。
そんな者を

相手にし

しるてはる
られないの

で福井領事を訪ね、テヘラン駐在
中山公使に駱旋依頼電報を打つて
貰ふ事とする。午後銀行へ行き旅
費を調べ、アメリカン・エキスプ
レンスで旅程調査を行ひ飛行機の坐
席豫約などを依頼した。七日は旅
仕方で暮れた。八日イラク總領事
の査證を貰ふ。十日テヘランから
バグダッド駐在イラン公使より査
證を取れとの電報が来た。直ちに
アメリカン・エキスプレス社と交

渉、日程を決定した。幸ひ十二日
カラチ發のイムベリアル・エアウ
エイズの坐席かとれたが、汽車で
は間に合はぬので、ボンベイ、カ
ラチ間もタタの旅客機を利用する
事とする。十一日朝十時十五分

孟買郊外

のゾユフ飛
行場を離陸

し海岸に沿つて北上、十二時十五
分アーメダバッドに着く。午後一
時五分同地發途中カッチのブージ
で給油の午後五時カッチに着い
た。この飛行場は最近設備が非
常に改善され印度第一たるのみな
らず、國際的に見ても立派なもの
だ。夜カラチ・タラブで在留邦人
廿數名と會食する機会を得たが、
こゝで偶然朝日
新聞社のI氏と
一緒になつた。
同氏は海外視察
旅行の途次偶々
ラングーン迄來
てゐた所、本社
の電命でテヘラ
ンに急行する事
になつたのだと
いふ。十二日午
前七時自動車を
驅つて水上飛行
場に赴き我等を
運ぶ四發動機の
所謂フライイング
・ボートは悠然
とその巨體を海
上に浮べてゐ
る。醫師の診斷、
旅券の検査等を
終へて五人艇に
乗込んだのが八

時少し前、僕とI氏は並んで席を
占めた。

旅客室は

三つに分れ
最後部は喫

煙室になつてゐる。収容人員は十
一、二名だが實にゆつたりしたも
ので廊下も廣くとつてあり、各坐
席毎に机があつて讀み書きが自由
に出来るやうになつてゐる。乗合
客は八名で内三名は婦人だ。若い
支那美人が支那服で乗つてゐるの
に時節柄一寸目を惹かれた。八時
離水、奇怪な灰色の絶壁と山に蔽
はれたベルチスタンの沿うに進
む。緑の色など薬にし度くも見つ
からない。二時間半程でグラタル
に着く。英領ベルチスタンの西端
だ。巨人艇はオーマン灣を横切つ
てオーマン國の上空を通過し午後
二時アラビアのシャージャに着水
した。

砂漠上の

湖水で枯た
たやうな椰

子の木が所々に立つてゐるだけ
だ。頭に布を巻いたアラビヤ人の
姿が見える。中に鐵砲を擔いだ兵
隊も三、四名ある。合乘りの西洋
人がその兵隊の帯びてゐるU字形
の短刀をいくらで賣るか交渉し
たが値段の點で纏りなかつた。値
段さへ纏れば携帯の武器を賣るつ
もりらしい。飛行艇の中ではお茶
でも麥酒でも食事も凡て飛行機
會社がサーヴィスして呉れる。ス
ープも出るし決してサンドウィツ
チだけといつたやうな干乾びたも
のではない。安いホテルのランチ
程度の御馳走を飛行中に提供して
呉れるので砂漠旅行をしてゐても
少しも不自由しない。午後五時パ
ーレンに着いた、この島はイラン
と英國との間に

主權争ひ

があり、今
でもイラン

では自國領だと主張してゐるが實
權は英國の手に歸し英國の管轄と
なつてゐる。パーレンへ旅行する
人は英國領事の査證を貰はねばな
らぬのだが、若しそれが判るとイ
ランでは自國の主權を否認した不
屈者といふ譯でその人の入國を絶
對に許さぬといふ厄介な所だ。
今度の旅行では唯飛行機が同地に
着水給油するだけであり、査證の
必要がなかつた爲め、幸ひ僕自身
は問題の渦中に捲込まれずに済ん
だわけである。地方時間午後六時
バスラに着く。カラチ出發以來十
二時間半かゝつてゐる。バスラ飛
行場は近東、中東、極東を通じ第
一番のもので水陸兩飛行場が一ヶ
所に並びその中間にシャテル・ア
ラブといふ立派な飛行場ホテルが
ある。

水上飛行

場はチグリ
ス・ユーフ



外交官が

同盟社見學

◆大使公使の脚！やがては帝
國の威信を双肩に荷つて世界の
外交舞臺に勇躍すべき外交官の
の初階梯にある外交官補十三名
が、去る十三日同盟通信社の見
學にやつて來た。
◆十一時福岡整理部長の斡旋で
會議室に於て岩永社長から約
一時間に亘る講話があり、將來外
交職線に立つ若人に對し、外交
と國際通信事業、と云つた指導
的な話があつた。
◆終へて各部の見學。多忙、喧
囂、複雑、微妙な各部各部の執
務振りを約一時間に亘つて熱心
に見學し、輕い午後午後三時
過引揚げた。(寫眞は岩永社長
と官補諸君)

「滿洲弘報協會 日本總社」設立

滿洲弘報協會並に滿洲國通信社
の東京支社は從來電通ビル内に在
つたが、今般滿洲國自體的發展狀
勢並に弘報協會本來の精神に鑑み
更に加盟各社の内地に於ける營業
宣傳、調査、其他各種の企業事務
一切の合理化と積極化を圖るた
め、弘報協會は日本内地に「弘報
協會日本總社」を設立し加盟社の
支局を一九として總社の統轄下に
置く事となつた尙社屋は近く京橋
區銀座七ノ四に移轉の筈。

着水して

見るとひと
い浪で上陸

するのに大變な騒ぎ。づぶ濡れに

第十五回 同盟理事會

六月二十一日於東京會館

第十五回同盟理事會は六月二十一日午前十一時二十分東京會館に開會(出席理事二十二名委任狀八名)左記事項を議了し午後零時十分閉會した。

◇議事

一、昭和十三年度收支決算の件(岩永社長の説明あり質疑應答の後承認)

二、第六回通常社員總會附議事項の件(別項参照)

三、理事改選並に常務理事決定の件(上田碩三、光永眞三兩氏重任、上田理事常務推挙)

四、通信停止社處置に關する件(左記二十一社除名決定)

每朝新聞社、八戸毎日新聞社、福島民友新聞社、山陰新聞社、上州新聞社、山陰日日新聞社、大坂今日新聞社、大坂市民日報社、長野新聞社、萬朝報社、大阪朝報社、石巻日日新聞社、莊内新報社、青森日報社、中央工業新聞社、岩手日報社、大阪商業新報社、評論新聞社、鶴岡日報社

五、諸般の報告

(イ)理事變動の件(野中高知、大島新愛知、杉山合同の三理事資格變更並に新愛知大島一郎、合同大森實兩氏の理事就任)

(ロ)社員新聞社異動の件(加盟社四社、合併廢刊其他に依る退社十社、同日現在社員數一ノ一社)

(ハ)海外支局新設の件(近くマニラ支局開設の豫定)

(ニ)國內支局廢止の件(尾道、姫路、前橋、濱松四支局閉鎖)

引續き同日午後二時十分より東京會館に於て第十六回理事會を開き理事二十七名出席、岩永社長は

定款に基き理事會長田中都吉、同副會長野中楠吉、同柏岡清勝三氏の任期満了による選挙の件を諮りたるに對し三氏再選の動議あり満場一致可決、三氏より夫々挨拶ありて同日二時十分散會した。

社員總會

第十六回同盟通常社員總會は同日午後一時十分より東京會館に開會、出席社員(委任狀共)百十八名、この表決權四千八百二票(總社員數百八十一名、この表決權五千八百四十票)先づ岩永社長議長席に就き左記議事を議了し同日散會した。

一、報告事項

(イ)昭和十三年度事業及び決算報告の件

(ロ)昭和十四年度豫算報告の件

一般會計——(一)支那支局新

福田泰助(都新聞)

山田金次郎(東奥) 一力次郎

(河北) 小坂武雄(信毎) 林政

武(北國) 進藤信義(神戸) 伊

豆富人(九州日日) 田中秋聲

(旭川) 井上廣居(秋田魁) 小

柳田平(新潟毎日) 後川之晴助

(日田) 末光鐵之助(關門日日)

藤安新之助(鹿兒島朝日)

監査(一名)

二、特別會計——寫眞部擴充計畫

二、定款第二十一條第一項第二號に依る理事並に同二十七條に依る監事任期満了に付改選の件

(任期満了理事七名缺員五名合計十二名、任期満了監事一名の選挙は動議により岩永議長、田中理事會長、野中、柏岡兩副會長が幹事委員となり次の如く決定満場之を承認した)

理事(十二名)

田中金次郎(東奥) 一力次郎

(河北) 小坂武雄(信毎) 林政

武(北國) 進藤信義(神戸) 伊

豆富人(九州日日) 田中秋聲

(旭川) 井上廣居(秋田魁) 小

柳田平(新潟毎日) 後川之晴助

(日田) 末光鐵之助(關門日日)

藤安新之助(鹿兒島朝日)

監査(一名)

設計畫(二)支那無線聯絡網擴充計畫(三)海外支局新設計畫(四)海外支局擴充計畫(五)國際記者養成計畫(六)海外通信蒐集機關の擴充計畫(七)國內通信蒐集機關の擴充計畫(八)内通信網の擴充計畫(九)對外無線放送擴充計畫(一〇)ニールスの國內無線放送計畫(一一)航空機擴充計畫

特別會計——寫眞部擴充計畫
二、定款第二十一條第一項第二號に依る理事並に同二十七條に依る監事任期満了に付改選の件
(任期満了理事七名缺員五名合計十二名、任期満了監事一名の選挙は動議により岩永議長、田中理事會長、野中、柏岡兩副會長が幹事委員となり次の如く決定満場之を承認した)

理事(十二名)
山田金次郎(東奥) 一力次郎
(河北) 小坂武雄(信毎) 林政
武(北國) 進藤信義(神戸) 伊豆富人(九州日日) 田中秋聲
(旭川) 井上廣居(秋田魁) 小柳田平(新潟毎日) 後川之晴助
(日田) 末光鐵之助(關門日日)
藤安新之助(鹿兒島朝日)
監査(一名)

二、特別會計——寫眞部擴充計畫
二、定款第二十一條第一項第二號に依る理事並に同二十七條に依る監事任期満了に付改選の件
(任期満了理事七名缺員五名合計十二名、任期満了監事一名の選挙は動議により岩永議長、田中理事會長、野中、柏岡兩副會長が幹事委員となり次の如く決定満場之を承認した)

理事(十二名)
山田金次郎(東奥) 一力次郎
(河北) 小坂武雄(信毎) 林政
武(北國) 進藤信義(神戸) 伊豆富人(九州日日) 田中秋聲
(旭川) 井上廣居(秋田魁) 小柳田平(新潟毎日) 後川之晴助
(日田) 末光鐵之助(關門日日)
藤安新之助(鹿兒島朝日)
監査(一名)

二、特別會計——寫眞部擴充計畫
二、定款第二十一條第一項第二號に依る理事並に同二十七條に依る監事任期満了に付改選の件
(任期満了理事七名缺員五名合計十二名、任期満了監事一名の選挙は動議により岩永議長、田中理事會長、野中、柏岡兩副會長が幹事委員となり次の如く決定満場之を承認した)

理事(十二名)
山田金次郎(東奥) 一力次郎
(河北) 小坂武雄(信毎) 林政
武(北國) 進藤信義(神戸) 伊豆富人(九州日日) 田中秋聲
(旭川) 井上廣居(秋田魁) 小柳田平(新潟毎日) 後川之晴助
(日田) 末光鐵之助(關門日日)
藤安新之助(鹿兒島朝日)
監査(一名)

二、特別會計——寫眞部擴充計畫
二、定款第二十一條第一項第二號に依る理事並に同二十七條に依る監事任期満了に付改選の件
(任期満了理事七名缺員五名合計十二名、任期満了監事一名の選挙は動議により岩永議長、田中理事會長、野中、柏岡兩副會長が幹事委員となり次の如く決定満場之を承認した)

理事(十二名)
山田金次郎(東奥) 一力次郎
(河北) 小坂武雄(信毎) 林政
武(北國) 進藤信義(神戸) 伊豆富人(九州日日) 田中秋聲
(旭川) 井上廣居(秋田魁) 小柳田平(新潟毎日) 後川之晴助
(日田) 末光鐵之助(關門日日)
藤安新之助(鹿兒島朝日)
監査(一名)

二、特別會計——寫眞部擴充計畫
二、定款第二十一條第一項第二號に依る理事並に同二十七條に依る監事任期満了に付改選の件
(任期満了理事七名缺員五名合計十二名、任期満了監事一名の選挙は動議により岩永議長、田中理事會長、野中、柏岡兩副會長が幹事委員となり次の如く決定満場之を承認した)

理事(十二名)
山田金次郎(東奥) 一力次郎
(河北) 小坂武雄(信毎) 林政
武(北國) 進藤信義(神戸) 伊豆富人(九州日日) 田中秋聲
(旭川) 井上廣居(秋田魁) 小柳田平(新潟毎日) 後川之晴助
(日田) 末光鐵之助(關門日日)
藤安新之助(鹿兒島朝日)
監査(一名)

二、特別會計——寫眞部擴充計畫
二、定款第二十一條第一項第二號に依る理事並に同二十七條に依る監事任期満了に付改選の件
(任期満了理事七名缺員五名合計十二名、任期満了監事一名の選挙は動議により岩永議長、田中理事會長、野中、柏岡兩副會長が幹事委員となり次の如く決定満場之を承認した)

理事(十二名)
山田金次郎(東奥) 一力次郎
(河北) 小坂武雄(信毎) 林政
武(北國) 進藤信義(神戸) 伊豆富人(九州日日) 田中秋聲
(旭川) 井上廣居(秋田魁) 小柳田平(新潟毎日) 後川之晴助
(日田) 末光鐵之助(關門日日)
藤安新之助(鹿兒島朝日)
監査(一名)

二、特別會計——寫眞部擴充計畫
二、定款第二十一條第一項第二號に依る理事並に同二十七條に依る監事任期満了に付改選の件
(任期満了理事七名缺員五名合計十二名、任期満了監事一名の選挙は動議により岩永議長、田中理事會長、野中、柏岡兩副會長が幹事委員となり次の如く決定満場之を承認した)

理事(十二名)
山田金次郎(東奥) 一力次郎
(河北) 小坂武雄(信毎) 林政
武(北國) 進藤信義(神戸) 伊豆富人(九州日日) 田中秋聲
(旭川) 井上廣居(秋田魁) 小柳田平(新潟毎日) 後川之晴助
(日田) 末光鐵之助(關門日日)
藤安新之助(鹿兒島朝日)
監査(一名)

二、特別會計——寫眞部擴充計畫
二、定款第二十一條第一項第二號に依る理事並に同二十七條に依る監事任期満了に付改選の件
(任期満了理事七名缺員五名合計十二名、任期満了監事一名の選挙は動議により岩永議長、田中理事會長、野中、柏岡兩副會長が幹事委員となり次の如く決定満場之を承認した)

これはならない。世界に於て同盟が一番よくその存在を主張してゐるのは同盟英文放送を通してである。それは英文部の一つの仕事に他ならない。聖戰既に

正に耐である
支那は血み泥
であり日本は懸命である。その近代性故に吾々は支那事變を「國家總力戰」と名づけた。宣傳戰はその一部門である。宣傳戰の武器は「ペン」によつて象徴される。ペンも亦大砲と砲彈と同じ鋼鐵で出来てゐる。國民政府は現在「重慶放送」として知られてゐるものに依つて日本に宣傳戰を挑んでゐる。日本は「東京放送」を以て應戰してゐる。その東京放送は取りも直さず同盟英文放送なのである

同盟同人の活動と勞作の結晶は、三階の片隅で昇華されて英文放送になり、それが日本を代辯してゐる。英文部は其の任の重さに耐へねばならないのである。

から始まつて
夜の十二時迄
殆んど六十分おきに出るその英文放送は波瀾萬里を越えて世界の岸邊を打つ。日本の正義の主張は世界人類の耳朶を敲く。重慶放送はその出鱈目故に有名であり同盟放送はその正確を以て鳴る。然も尙同盟放送は種々の改善を要するの好意に満ちる意見と支持が絶對に必要である。英文放送はその仕向地に依つて、歐洲ゾーン、米州ゾーン、太平洋ゾーンと別れるこれを表示すれば次の通りである

同盟通信英文
放送受信先
1 對歐放送(午前六時、午後五時
午後八時 正午の分)

受 信 先
(一)ロイテル通信社(ロンドン)
(二)ハパス通信社(パリ)

(三)ステファニ通信社(ローマ)
(四)デー・ユヌ・ビー通信社(ベルリン)
(五)國際聯盟事務局(ジュネーヴ)

(六)パツト通信社(ワルソー)
(七)ラタ通信社(リガ)
(八)タス通信社(モスクー)

(九)アナトリー通信社(アンカラ・スタンプル)
(十)ブルツセル及びリスアニヤ並にラトヴィアの通信社
(十一)パルス通信社(テヘラン)
(十二)カプールの通信社
(十三)アナタ通信社(パタビヤ)

(十四)ロイテル通信社(上海支局)
(十五)上海同盟通信社
2 對米放送(午前零時三十分、午前九時、午後一時、午後九時の分)

受 信 先
(一)マニラのロイテル及びニュービー支局
(二)ホノルル(日布時事新聞其他)
(三)ニューヨーク(トラスラチオ社)
(四)リオデジャネイロ(アゲブラ通信社)
(五)リマの通信社
(六)メキシコの通信社
(七)サンフランシスコ其他の邦人經營新聞

3 對太平洋沿岸放送(午前十時、十一時、午後二時、三時、四時、六時半、七時、十時四十分、十一時四十分)

受 信 先
(一)上海 (二)天津 (三)北京
(四)香港/各同盟支局
同盟が日本唯一最大の通信社として外國通信員への主要な通信の供給者となる。英文サービスは外國通信員のための存在しない同時に日本の凡ての英字新聞の爲に極めて限られてゐる上に自主的ニ

る。朝の始發電車の地響はこのサービスを始める爲の自覺時計である。

かくの如く
英文部の任務は極めて重要である。併し吾々は必ずしも強力でないそのスタッフは、重い荷を負つて遠い道を進んでゐるのである。幸ひにして、今後一層の指導と援助が同盟同人諸子により與えられることこそ望んで息まぬところである。

一億一心
百億貯蓄

る。當然に同盟を唯一の頼りとしてゐる。英文サービスは夫等の要求を

をも果してゐる。英文部は現在三種のサービスを發行する。その分類は一應便宜のものに過ぎないが、

一、國內ニュースサービス
二、東亞ニュースサービス
三、新聞ニュースサービス
が其である。

國內ニュースサービスは通例、内信として知られてゐる一切の報道を原則として取扱ふ。東亞

ニュースサービスは汎く東亞の地理的概念に依つて規定せられる地域の報道をその内容としてゐる。戰況はその中にはない。新聞

ニュースサービスは都下の日刊新聞を社説を含めて概観するのが意圖である。前二者は英文サービスの基本として英文部同人の協同の仕事である。これに反し後者のサービスは宿直同人の仕事である。朝の始發電車の地響はこのサービスを始める爲の自覺時計である。

かくの如く
英文部の任務は極めて重要である。併し吾々は必ずしも強力でないそのスタッフは、重い荷を負つて遠い道を進んでゐるのである。幸ひにして、今後一層の指導と援助が同盟同人諸子により與えられることこそ望んで息まぬところである。

一億一心
百億貯蓄

日滿鮮通信聯絡會議

福岡に於て細目打合せ

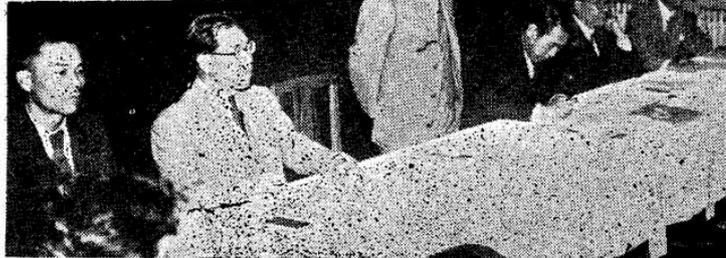
去る三月末新京城通社に於て國通並に同盟の日滿支連絡會議を開き通信事務の完璧を期するため其の運用原則を協議決定したが、今回更に内鮮滿直通専用電話の開通及び北京大阪間の有線直通電送寫真が開始されることになつたので之が運用に關する國通、商通、同盟三社の細目打合せ會は六月廿三、四の兩日福岡市博多ホテル會議室に於て開會された。三社の出席者左の如し

(國通側) 森田社長、鈴木聯絡部長、帆足奉天支社長、宮崎東京駐在員
(商通側) 川島常務取締役、山



部長、潮海地方部長、松宮大阪聯絡部長、近藤日笠同聯絡主任、麻生福岡支社長、矢野同聯絡主任、寺尾眞主任、黒木聯絡、竹村商況内藤電送、岡本總務の四社員、河崎京城支局長、小池同聯絡員、磯部釜山支局長
先づ第一日たる廿三日午前十時山口聯絡部長司會の下に開會、島山理事、鈴木國通、川島商通、山口同盟各氏より夫々挨拶を述べ議

本京城支社長、小倉京城支社通信主任、高橋釜山支局長、山崎下關支局長
(同盟側) 島山常務理事、山口聯絡部長、福岡發信部長兼整理



事に入る。(議事内容は略す)
一、電信(有線)電話及び放送(無線)の利用限度並に調節の件
イ、經濟商況の件
ロ、寫真電送の件
ハ、送信順位の件
ニ、殘存豫約電話の件
ホ、事務取扱の件
ヘ、申込電話利用の件
ト、非常手配の件
二、航空便及び列車便の利用に關する件
右の議題に對し全員熱心に協議を進め之を議して午後六時散會、同七時より清流莊に於ける懇親會に一同出席した。

廣東たより

小座間 茂

◆東京はもう新緑になつた事でせう、快い武蔵野の空が思出されてなりません。當地は雨季が終つたらしく、二、三日前から街も野山も本格的な南国風景を呈してゐます。二、三十分も炎天下を歩いて來ると、もう目立つて顔がコンガリと灼けて了ひます。戦争もこの分では秋までお預けだなどと深刻な冗談も飛出す程です。
◆支那人は日中の暑い時は寝てゐるのですが、支局の仕事は寸暇もない多忙さです。日に二回の通信發行のためには、ローマ字を翻譯してガリ版に書かねばならず、その合間々々には各機關を二、三人で分擔して廻り取材せねばならぬのです。支局長だつてフンゾリ返つては居られない。肥つてる牛鳥君は人一倍暑がつてフー／＼云つてゐる状態です。

◆先ほど支局の筋向に開店披露した同盟寫眞ニュース館は早くも繁昌して兵隊さんも支那人もワンサカ押しかけてサーピス姑娘も汗ダクの状態です。「こりやい、僕が映つてるよ、一枚分けて下さい」などと云ふ兵隊さんもあります。この寫眞は九江や石龍あたりで最近の戦闘状況を撮つたもので、何れも小椋君の苦勞が滲み出してゐる名作品なのです。こうした客の接待も吾々の仕事の一部と思へば苦にもなりません。ただ苦勞の種は蒸されるのが寒暖計より體に感じる方がズツとひどく街にはコレが流行し出したこと、蚊軍に攻められることの二つです。この蚊の執拗さと來たら抗日軍どころの沙汰ではありません。朝から晩まで引切なしにカーとも何とも云はずにチクリとやつて逃げて行く

くのです。各机の下に三本位づゝ蚊ヤリ線香をたいておくのですが、線香に威力が無いのか蚊軍の連続には全く閉口頓首です。
◆夜の廣東市は晝の賑ひと打つて變つて眞の暗闇で物騒です。劍付銃が闇の中でキラリと光り、誰何されたりすると切角姑娘とのほろ甘い語らひの餘フンがトタンに消し飛んで了ふあはれさです。前線のこの支局でのたのしきは飛行場に行くことです。なつかしい故國からの便り、新聞などが受けとれるからです。
◆近くこの街に氷屋が出来るといふことです。こゝでは水は勿論冷たいものは絶対飲めないからです。ビールもサイダーも殆んど湯になつてゐる始末です。そのビールが何と一本八十錢、サイダーが四十錢といふ莫迦値で飛ぶやうに賣れてゐるのはウソのやうな話です。三食のアブラ氣にウツボツたる腕を徒らに撫してゐる吾々勇士の、鼻に來る姑娘特有の體臭とビエチニー(ビール)との交錯した香氣に金高などは超越して了ふからなのでせう。

◆昨晚もビールに酔つた勢ひで、誰かが夜半の屋上で、馬賊の唄かなんか吠えてたのです。その時裏の空地のくらがり人の氣配を感じた僕は「スワ匪賊」と懐中電燈を片手に怪しげな廣東語で誰何し乍ら下りて行くと、それはうちの支那人ボーイ達だつたのです。「強盜侵入屋上で格闘ある、怖い」といふのです。これは笑えぬ話です。部屋に戻ると今度は机の上で黒い魔物が格闘してゐるので二度ビックリ、これはボーイが裏のパナナの木からとつて來たコーモリが逃げ出して來たものと判明、かくて最南端支局の一日は終りました。
◆バーン／＼遠く銃聲が聞こえる。今支那時上午一點鐘を報じました。銃聲を枕に數ふ曇さかな。(五月十八日發)

互助會報告

(六月分)

- △出生 小栗周三郎(本社整理部)第三子女 齊藤 保衛(大阪 支社)第四子女
- △結婚 伏見さわ子(本社寫眞部) 田中 一夫(關門支社) 深澤 太郎(名古屋支社) 森本 豊(釜山支局)
- △應召 鈴木 啓造(本社タイプ部) 高津 末吉(同映畫部) 入江 一夫(京都支局)
- △退社 名和 洋(本社聯絡部) 遠藤 興一(同運動部) 秋田 正男(同社會部) 伊藤 俊(天津支局) 水谷 一三(名古屋支社) 横田 正平(大阪支社) 牧野 正治(名古屋支社)
- △病氣見舞 村野 敬雄(本社聯絡部) 岩崎 敏人(同經濟部) 酒井 靜子(福岡支社) 坂本 熊基(同上) 白石 亮(釜山支局) 小松 義明(廣島支局)
- △弔 慰 神戸 芳夫(本社規畫部)本人死去 齊藤 孝二(名古屋支社)實父死去 齋藤 吾吾(同上)同上

同盟人事

内信局社會部社員 山本 忍介
 内信局社會部次長ヲ命ス(五・二六)
 大阪支社寫眞部長 鈴木 茂
 大阪支社寫眞部長ヲ命ス
 大阪支社社員 大鍋 時生
 大阪支社通信部長ヲ命ス(五・二二各通)
 香港支社社員 中屋 健式
 マニラ支社長ヲ命ス(五・二四)
 中南支社社員 高崎 修
 青木中南支社總務部部長不在中同
 事務取扱ヲ命ス(六・一)
 社員ヲ命ス 杉田 才一
 總務局庶務部勤務ヲ命ス
 事業局出版部社員 龜田 督
 航空事務兼擔 龜田 督
 總務局庶務部兼業務部勤務ヲ命ス
 航空事務兼擔如故(六・一各通)
 名古屋支社社員 富田 三郎
 事業局寫眞部勤務ヲ命ス
 廣島支局准社員 菅野 浩歌
 名古屋支社勤務ヲ命ス
 名古屋支社勤務ヲ命ス
 事業局寫眞部社員 藤倉 吉三
 北支總局勤務ヲ命ス(五・三一)
 外信局外信部社員 佐藤 重雄
 香港支局勤務ヲ命ス(五・二四)
 内信局政治部社員 竹野 進一
 廈門(出張)ヲ命ス(五・二五)
 准社員ヲ命ス(天津支局勤務)
 藤田 秀雄
 高田由太郎
 准社員ヲ命ス(大阪支社勤務)
 宇山 廣藏
 准社員ヲ命ス(臺北支局勤務)(六
 ・一各通)
 紅育支局囑託 嘉納 慶方
 社員試用、經濟局外信部勤務ヲ命
 ス(五・二二)
 陸奥陽之助
 社員試用、外信局外信部勤務ヲ命
 ス(五・二二)
 田島 義雄
 社員試用、聯絡局規畫部勤務ヲ命
 ス(五・二三)
 大阪支社勤務ヲ命ス
 社員試用、大阪支社勤務ヲ命ス
 井上 謙

社員試用、廣島支局勤務ヲ命ス
 安原 善次
 小田島房志
 准社員試用、外信局發信部勤務ヲ
 命ス(五・二三)
 山内 典二
 准社員試用、外信局發信部勤務ヲ
 命ス(五・二四)
 服部 國夫
 准社員試用、名古屋支社勤務ヲ命
 ス(五・二四)
 池東 正資
 准社員試用、廣島支局勤務ヲ命ス
 名古屋支社社員試用 中垣重男
 函館支局社員試用 湯田 保司
 社員ヲ命ス(六・一、各通)
 熊本支局社員試用 上杉 憲治
 社員ヲ命ス(五・一九)
 總務局經理部 谷澤てい子
 准社員試用
 同 朝井 米子
 内信局社會部 太田 純一
 准社員試用 藤尾 信一
 名古屋支社 藤尾 信一
 准社員試用
 中南支總局臨時在勤 荒木秀三郎
 (事業局映畫部社員)
 本社(歸還)ヲ命ス(五・二五)
 森田憲二郎
 大津通信員ヲ囑託ス(六・一)
 澤 重信
 廈門通信員ヲ囑託ス(五・一七)
 前橋支局主任代理 住谷 新市
 支局主任代理ヲ解ク
 濱松支局長事務囑託 松野 喜作
 支局長事務囑託ヲ解ク(各通)
 大阪支社准社員 松永タツエ
 栗原 はな
 水谷 一三
 同 リチヤード
 名古屋支社准社員
 外信局外信部囑託
 勤務准社員
 同 エ・テネリ
 内信局タイプ部 菊井 八郎
 勤務社員 佐藤 友三
 内信局運動部 高橋 三郎
 勤務社員試用 石村 透
 臺北支局勤務社員
 依願解職(各通)
 事業局映畫部社員 加藤 勝一
 (大阪支社在勤)
 事業局映畫部業務主任ヲ命ス

事業局映畫部次長 野村 俊雄
 兼業務主任 兼務ヲ解ク(六・一三、各通)
 大阪支社社員 高 岩吉
 大阪支社總務部業務主任ヲ命ス
 足利支局長事務囑託 古川貞市
 桐生支局長ノ事務ヲ囑託ス
 永田 武秋
 足利支局長ノ事務ヲ囑託ス(六・
 一、各通)
 聯絡局規畫部社員 津川 勝美
 事業局映畫部社員 牧島 貞一
 廣東支局臨時在勤ヲ命ス(六・五
 各通)
 内信局政治部社員 齊藤 玄彦
 事業局規畫部社員 松尾 信
 廣東支局臨時在勤ヲ命ス(六・一
 二、各通)
 事業局寫眞部准社員 石井周治
 廣東支局臨時在勤ヲ命ス(六・三)



東京夏場所相撲の速報板
 廣東でも黒山の人ばかり

大相撲夏場所——廣東は全く夏
 場所です。せめて東京を偲ぶよ
 すがにも、暑いのには板を切つ
 たり、削つたり、危ツかしい手
 付で針を打つたりしてやつと支
 局前に作り上げた「大相撲速報
 板」ラヂオの實況放送が聞ける
 素晴らしい、忽ち大人氣を呼んで
 毎日黒山の人ばかり、東京なら
 交通巡査を出すだらうと云ふ盛
 況でした。
 △勝負も終つて薄暗くなつた頃、
 遠くの部隊から晝の作業に疲れ
 た兵隊さんが毎日通つて来て熱
 心に札を眺めては鉛筆をなめ乍
 ら、よれよれになつた手帳へ書
 込んで居る姿を見ると、凡そ娯
 しみから遠ざかつた前線の勞苦
 が偲ばれて何か良い事をしてゐ
 る様な氣持になり、しまひには
 毎日兵隊さんが来る前に誰かと

横濱支局社員 進藤 幸祿
 (廣東支局出張中)
 内信局社會部勤務ヲ命ス(五・三)
 大阪支社社員 鹽崎 義雄
 岡山支局准社員 玉井 靖
 岡山支局准社員 加藤 定行
 廣島支局勤務ヲ命ス(各通)
 聯絡局聯絡部勤務ヲ命ス(各通)
 事業局映畫部社員 八住 紫郎
 大阪支局在勤ヲ命ス(六・一三)
 聯絡局聯絡部 原田 一
 社員試用
 福岡支社勤務ヲ命ス(六・五)
 聯絡局聯絡部社員 疋田 一男
 岡山支局勤務ヲ命ス
 神戸支局社員 森本 豊
 岡山支局社員 渡邊 定吉
 廣島支局准社員 濱本 光三
 同 社員試用 井上 俊一
 釜山支局勤務ヲ命ス

聯絡局聯絡部社員 石井 末吉
 大阪支社社員 吉野 源六
 同 准社員 山野 喜祝
 岡門支社社員 龜井光太郎
 福岡支局准社員 田中 隆司
 京城支局勤務ヲ命ス(六・五、各通)
 竹林 修三
 社員試用、京城支局勤務ヲ命ス
 松本 愛子
 山本喜久枝
 准社員試用、大阪支社勤務ヲ命ス
 國枝 潔
 准社員試用、福岡支社勤務ヲ命ス
 (六・一、各通)
 服部 博
 准社員試用、岡山支局勤務ヲ命ス
 總務局經理部囑託 新井勝太郎
 社員ヲ命ス(六・五)
 外信局英文部 高橋 幾代
 准社員試用
 依願解職

准社員ヲ命ス(六・九)
 青森支局准社員試用 川村祐三
 准社員ヲ命ス(六・九)
 伊藤 勘太
 白井 秋水
 多田 羅弘
 大阪支社ノ事務ヲ囑託ス
 寺田 元春
 長崎支局ノ事務ヲ囑託ス
 大阪支社准社員 仙田 芳
 伯井芳ト改姓
 福岡支社社員 榮田 春吉
 社務ノ都合ニ依リ解職
 大阪支社准社員試用 土居 龍己
 同 佐伯 詳三
 京城支局社員試用 窪田 洋
 聯絡局聯絡部社員 名和 正男
 内信局社會部社員 秋田 正男
 大阪支社社員 横田 正平
 依願解職

體位向上

た事のない角通ですからこんな
 恐い顔して力んでゐても氣は優
 しいらしいです。
 △其他の面々は皆紳士ですから別
 に特筆すべきエピソードもあり
 ませんが、右端の姑娘は支局の
 向ひの同盟ニュース館のサビー
 スガールで、小椋カメラマン氏
 に云はせれば廣東一の美人であ
 り、楊貴妃もハダシだといふ。
 昔の楊貴妃に逢つた事がないの
 で萬事！小椋君にお任せする事
 になつてゐます。
 △とに角此の通り皆元氣です、目
 下流行中のコレラにもチブスに
 も負けず、中には却つてチブス
 にかゝれないのを残念がる程元
 氣な男も居る位ですから御安心
 下さい、遙かに諸兄姉の御活躍
 を祈ります。
 △寫眞は素君が寫したものです。
 機械は非常に上等なのですが、